

学習の3段階理論の「理解」はどのようにしたらよいか

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。

昨日、栃木県の県立高等学校の合格発表がありました。合格なさった方は本当におめでとうございます。1年間、長い方は3年間勉強なさった成果が、ここに出たのだと思います。惜しくも合格を逃した方は、本当に残念でした。ただ、一所懸命に勉強した結果ですので、それは素直に受け止めていただいて、進む学校が1つは決まっている場合が多いと思いますので、ぜひ、その学校で頑張ってお勉強していただきたいと思います。いくら悲しんでももとに戻ることはいけませんので、次のステップで頑張ることが大事だと思います。試験で不合格になった場合でも実力はついていますので、よく勉強したと自分自身を納得させて、次の段階である新しい学校での勉強に一所懸命取り組んでいただければ有り難いと思います。

今日は、「勉強の仕方」について基本的なお話をさせていただきます。学習効果は、学習時間×学習方法で決まると先週お話ししましたが、その続きです。

学習には3つの段階があります。「うん、なるほど」とよく納得する段階、これを「理解」の段階と言います。次は、納得したことを身に付ける、覚える段階、これを「定着」の段階と言います。最後は、その「理解」「定着」したことを、試験や普段の生活の中で応用する「応用」の段階です。学習にはこの3つの段階がありますので、それぞれの段階にふさわしい学習の仕方をしなければ、成果はなかなか出ません。今自分がどの段階をやっているのか、それをまず認識した上で、その段階にふさわしい勉強の仕方をしていただければと思います。

最初に、「理解」はどのようにしたらよいかお話しします。「理解」をするには、2つのパターンがあります。1つは、人の話を聞いて「理解」する場合です。学校のように、教科書・テキスト・参考書・副読本・プリントなどが十分にあって、それらの内容を先生が解説する授業が1つあります。あと1つは、そのようなものがあまりなくて、先生が黒板を使ってそこに自分の考え方を一所懸命書いて、それを生徒に覚えてもらう、「理解」させるという授業です。この2つを分けて考えた方がよいと思います。

1つめの授業は、メモをとる必要がありません。これが大事ですよ。ですから、先生の目をちゃんと見て、両手は机の上に置いて、先生のお話になることを集中して真剣に聞く。これが一番よい

態度です。そして、先生は何をお話になっているのか、どのような道筋で話が進んでいるのか等を一所懸命考えながら、1つのことについての「理解」を深めていくとよいのではないかと思います。繰り返しになりますが、手元に教科書・副読本・プリントなどがあり、それを先生がわかりやすく説明して下さるわけですから、メモをとる必要はありません。先生の説明を徹底的に集中して聞くことが、「理解」のためには一番大事なことです。これが1つですね。

先生がそういうものをあまり用意なさらず教科書もプリントもない場合は、先生の説明されたことを一語一句書き取る作業が必要になります。先生がわかりやすく説明して下さった内容も、ノートに書き留めておかないと全部忘れてしまいます。「うん、なるほど」と腑に落ちたこと、つまり「理解」したことを忘れてしまったのでは何にもなりませんので、先生のお話になることを一語一句おろそかにせず書き取ることが大事であると思います。書き取る時は、なるべく大きなノート、できればA版のノートにするのがよいでしょう。

大人の方は講演などをお聞きになる機会が多いと思いますが、非常に込み入った話のとき、技術的な話のときには、できるだけ書き取ることをお勧めいたします。ただ、大雑把な話のとき、例えば精神論などの場合には書き取る必要はありません。込み入った話でとても覚えきれないという場合には書き取りましょう。これが、2つめのパターンです。

先生の授業の仕方によって、ノートを取る必要がない場合には、手を机の上に置き先生の目をみて必死に聞く。書き取る必要があれば、徹底的に書き取る。このように、2つに分けてお考えになったらよいのではないかと思います。

今日は、勉強の仕方の基本となる「理解」「定着」「応用」の中で、「うん、なるほど」と「理解」をするにはどうしたらよいかについてお話しました。来週は、「定着」、どのようにしたらそれを身に付けることができるのかについてお話します。栃木県では、昨日高校入試の合格発表がありました。合格なさった方は喜びを噛みしめて今日からまた新しい勉強を始めて下さい。惜しくも不合格になってしまった方は、めげずに、おそらく1つは決まっていると思いますので、その新しい学校で最大限に自分の能力を発揮できるよう頑張ってください。